ドイツから見た日本

日独文化交流の最前線

Japan
through German eyes

かつての日本はドイツに熱い視線を注いでいたが、ほとんど「片思い」に近かった。日本の伝統や精神文化は、限られた層にのみ共有されていた。最初に広い層に広まったのは、柔道をはじめとする武道だった。そして日本が車をはじめとする工業生産の面でドイツを追い抜くと、日本の「成功の秘密」を解き明かそうとして、伝統的な文化背景（忠誠心など）が話題に上るようになる。最新のテクノロジーと伝統的ないし前近代的な意識の共存は、ドイツのマスコミが伝える日本像の基本パターンとなっている。その一方で、ドイツでも熱狂的なマンガ・アニメ・コスプレのファンが増え、日本の精神性や伝統とは遠い若者文化が受け入れられ、また村上春樹が愛読されるようになる。

こうした流れを、日独文化交流の最前線における経験から読み解いていきたいと思います。

講師：上田（うえだ）　浩二（こうじ）
獨協大学外国語学部特任教授

東京大学教養学科でドイツ文化、同大学院で比較文学・比較文化を学び、ベルリン自由大学ならびにウィーン大学に留学（のちに両大学で客員教授に招かれる）。早稲田大学・筑波大学教授を経て2011年より現職。その間にベルリン日独センター副事務総長、ケルン日本文化会館（国際交流基金）の館長を歴任し、日独間の学術・文化交流の最前線で実務経験を積んだ。

日時　2月27日（土）13時～15時（12時開場）

場所　獨協大学　天野貞祐記念館大講堂
東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通　東武スカイツリーライン「松原団地駅」西口徒歩5分　＊車でのご来校はご遠慮ください

受講　無料　定員500人　当日先着順　事前申込不要

共催：草加市

2015年度
獨協大学オープンカレッジ特別講座

獨協大学エクステンションセンター
☎048-946-1678
〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1